

人と食と大地 に夢を



澄み渡った秋空のもと、圃場を観察する宮森靜一代表の姿がある。「いい稻は稻姿が違います。ほど良く背を伸ばし、頭を垂れた姿のいい稻を見る」と、『今年もいいぞ。あの田圃へ行つて見て来いよ』と従業員に声をかけるんです」。収穫の秋は、従業員の努力も実る、一年中で最も感動する季節だ。

春一面に水が張られた田に苗が植えられる。苗が成長し、二十本ほどの茎を出すと、「これ以上、茎は不要と判断して、それまで張つてあつた水を干します」。排水がよくなるよう圃場の水を切り、地面が乾けば水を流す。稻の成長に応

じて田に張る水の量を加減する。稻姿のいい稻を育てるには、米どころの生産者が培った水の管理が欠かせない。「ただ作物は、用水から流す水だけでは生き生きしないんです。ときおり天から雨が降つてこなければ……」。ところが、最近では異常気象が続き、管理にはひとつわ手がかかる。いや異常気象の影響は作物だけではなかつた。平成二十二年十二月九日、竜巻に見舞われた。水耕栽培用ハウスと米の乾燥施設が一瞬のうちに吹き飛ばされ、多額の損害を負つ

た。「これから雪が降るというのに建物には屋根がない。ハウスにはまだ作物が植わっていない。軌道にのるまでに半年以上。助けてくれたのは従業員と地域の仲間でした」。人々の力により、乾燥施設は年内に、ハウスは翌年の四月までに修復を終えることができたと語る宮森代表。「天候には一番悩まされる」と言う。

異常気象への対策は「土の改善。大地の力、地力をつけることです」。地力をつけるため、ふあーむ大地では土壤診断を行って、結果に基づき、堆肥などの有機資材を圃場に施す。「数年前、頸城地区に堆肥センターができました。牛糞と稲藁の堆肥、それらを田圃に散布しています」。このほか化学肥料を有機質の肥料に変えて撒いたり、種糲を温かい湯に浸けることで病害虫を消毒。抵抗性品種『コシヒカリBL』を導入し、いもち病を削減するなど、同社は工コファーマーにも認定されている。「秋には大型コンバインを圃場に入れるため、機械が埋まらない程度に土を乾かさなければなりません」。見渡す限り黄金色に染まった田圃の中で宮森代表の笑顔が輝いた。

そして若い力

日本有数の豪雪地、上越市。ふあーむ大地がある頸城区は日本海を西に望み、米山や妙高山に囲まれた平坦で肥沃な平野のほぼ中央に位置する。「コシヒカリなどの米を五十二・〇五ヘクタール、大豆を十二ヘクタール、園芸ハウツ二棟で小ねぎ、三つ葉、サンチコなどを栽培しています」昭和五十八年に産声をあげたふあーむ大地。集落の五軒の農家で稲刈りから乾燥までの秋作業を行う生産組合からスタートした。農家に生まれ、農業高校を卒業後、ガラス工場に二十年勤務しながら、兼業で農業に従事してきた宮森代表。「四十年で会社を辞め、副代表に就きました」というのも、「農業が好きですから。」だから、どんな仕事でも苦にならない。

三軒の農家で法人化した組織は、今や従業員十八名を数える会社になつた。「二十代が三人、三十代が一人、四十代が一人と、若者が多数、就労してくれています」。高齢化、後継者不足が喫緊の課題となっている日本農業の中にあって、頸城区でも大農経営の多い旧大瀬(おおぶけ)村は比較的後継者に恵まれていると言

う。そんな若者たちが頸城区の農協青年部で地元の小学生に米作りを教えていた。副代表の松本祐一さんは語る。「田植えと稻刈りの季節には学校田に出かけ、米の美味しさや稻作の大切さを伝え、農業を身近に感じてもらえるよう、一緒に作業しています」。頸城区には小学校が三校、中学校が一校あり、学校給食にふあーむ大地の味噌や野菜が提供される。「米も上越市が定めた学校給食用を栽培しています。学校給食で使ってもららえるのが一番嬉しいですね」「人」と「食」と「大地」を大切にしたい。ふあーむ大地という名称には、そんな思いが込められている。宮森代表は語る。「我々の理念は地域とともにであること、地域の人々の役に立つことです」。高齢者だけとなつて農作業が厳しくなつた小規模農家に代わり、苗作りや田植え、稻刈りを行なう作業委託や冬場の上越市市道の除雪など、地域と積極的に関わっているふあーむ大地。宮森代表は言う。「若い者には、『地域の見本になれ。誇りと夢を持て』と言つています。彼らは日本農業の明日を支える、希望の灯なんですから」

三軒の農家で法人化した組織は、今や従業員十八名を数える会社になった。「二十代が三人、三十代が二人、四十代が●人と、若者が多数、就労してくれるています」。高齢化、後継者不足が喫緊の課題となっている日本農業の中にあって、後継者に恵まれていると言

なつて農作業が厳しくなつた
小規模農家に代わり、苗作り
や田植え、稻刈りを行う作業
委託や冬場の上越市市道の除
雪など、地域と積極的に関わつ
ているふあーむ大地。宮森代表
は言う。「若い者には、『地域の
見本になれ。誇りと夢を持つ』
と言つています。彼らは日本農
業の明日を支える、希望の灯
なんですから」



看
事合法人
ふあーむ大地



理事

08 ●読者プレゼントがあります。9ページをご覧ください。